也、その時總客一同に少手をつき、少禮こゝろ有べし、扨亭主うす茶をと云、まづ御仕廻候へとあいさつ尤也、

〔茶之湯六宗匠傳記三〕古田織部殿自筆の寫

一濃茶をのむに、上座中座茶碗廻す事は見苦敷、下座にてはまわしのむべし、子細は茶のふくを能せんが爲なり、

〔和泉草二〕濃茶立樣同呑樣

一茶筌ニ而フル時、廻リニ茶ノツカヌ樣ニ、カタマリ振ホドク樣ニ、底ニカタマリノ殘ラヌ樣ニ、イキノ失ヌ樣ニ、泡ノキエ候樣ニ、餘リ久敷フラヌ樣ニ、手先ニテイソガシク振ベカラズ、肩ニテ靜ニ振ベシ、何時モ小服成吉、呑人モ三口ヨリ多呑ハ惡シ、亭主客ノ數ヲ考テ服ヲ立ル物也、呑アマシテ再返廻スハ不仕付也、

一小口ニ一口々々呑切タル跡、齒ヲ喰ツメル樣ニシテ茶ヲカム樣ニ呑也、如教呑バ、茶ノ味ヲ能善惡ヲ覺物也、濃茶ヲ呑内、余所目遣セヌモノ也、

一濃茶ヲ草ニ立、薄茶ヲ眞ニ立ルト云習有、口傳、

濃茶ノ後湯ヲ乞テ呑事

一湯ヲ乞テ呑儀、利休時分ニナキ事也、亭主情ヲ出シタル茶ヲ、湯ニテ早々洗流ハ不仕儀也、茶ヲサヱ被下間敷ト云事有之也、

〔草人木上〕一薄茶世にはやり出しは、根本東陽より事おこり侍也、利休いまだゐんぢの時迄は、無上の日に、一時の間は、うすちやなどのむ事はと各申されしを、書置たる物語などあれ共、此東陽はじまりしより一段然べき薄茶也、客を請じても、養生などにてこひ茶をのまぬ人もあり、又侘たる道具などほり出し、薄茶に事をよせて、其道具出し候なかだちにもなり、又は會席の上にこ

薄茶